

# 児童の発言を促進する ための実践的研究

## —小集団指導を中心に—

燕市立燕東小学校教諭

保倉昌一郎

### はじめに

担当学級では、児童の発言が不活発である。児童の発言状況を調べるため、学級の全児童について、1週間における学級会活動、「朝の会」や「帰りの会」などでの発言回数を、試みに調査した結果、発言回数0、1のものが30%に達した。そのうち、ほとんどの児童が、ひとりでは発言しにくい、小集団では発言しやすいと回答している。

児童の発言の不活発な理由は、児童の成長発達、性格の特徴、生活環境などに求められようが、特に学級における児童集団とそれに所属する児童がおかれている事態を重要視したい。

児童の発言の不活発が、児童相互の意志疎通や社会性の発達を阻害するであろうし、また、教育諸活動における話し合いに関連するとすれば、学力向上のためにも軽視できない問題であろう。

この研究は、話し合いに消極的態度を示す児童に対し、学級会活動

での小集団活動の発展をととして、話し合いに積極的態度で参加し発言するよう指導した実践記録である。

## I 研究の目的

話し合いに消極的態度を示す児童と、所属する小集団との関係を究明し、児童の発言を活発にする指導のあり方を検討する。

## II 研究の方法

上記の目的に対して、指導の実践的研究方法上の観点として、次のふたつを設定した。

(1) 話し合いに消極的態度を示す児童は、小集団活動の発展をととして、話し合いに積極的態度で参加して発言するであろう。

(2) 話し合いに消極的態度を示す児童の情緒的安定と集団への所属意識は、小集団活動の発展をととして、高まるであろう。

### 1 対象

話し合いに消極的態度を示す児童の選定方法は、担当学級の全児童(5学年)について、教師の観察、話し合い活動に関する意識調査などを実施し、その結果、研究対象児童として5名を選定し、これらをA、B、C、D、Eの符号で示すことにする。第1表は、研究対象児童の実態に関するものである。

第1表

児 童	知 能 性 向 性 検 査 偏 差 値 偏 差 値 (田研式)	性 格	ソ シ オ メ ト リ ー	係 の 仕 事
A (男)	35	53	身のみわり他人のことに無頓着 人の話をよく聞かない	選 + 3 排 - 5 けい示係 (背面黒板の作品はりかえ)
B (男)	32	53	神経質傾向が強い。 温和、無口、行動は受動的	選 + 1 排 - 5 新聞係 (学級ニュース集め)
C (男)	44	49	内気、孤立的、集団生活を好まない 明朗さに欠ける	選 + 1 排 - 5 給食係 (パン牛乳の用意と後始末)
D (女)	43	55	孤独を好む 生活態度がやや暗い 仕事はまじめ	選 + 3 排 - 4 保健係 (衛生検査とけがの手当)
E (女)	31	48	孤立的 人とあまり話さない 明朗性を欠く	選 0 排 - 5 整美係 (下駄箱、雨具かけの整理)

## 2 方法

### (1) 小集団の構成

ア 事前調査 ソシオメトリー

イ 構成の留意点

(ア) 担当学級を小集団8個編成とし、抽出児は1、2、4、5、8班に1名ずつ入れた。

(イ) リーダーの決定は、抽出児が選択したものを主とし、性格、能力等を考慮して、リーダーの資格があると判定されたものを各

集団に1名ずつ入れた。

(ウ) 抽出児、リーダー以外の成員については、性格、能力、通学地域等を中心として、比較的抽出児が親しみやすいと思われるものとした。

(エ) 各小集団の構成員は、第2表のようになっている。

(オ) 集団間の能力差は、できるだけ少なくした。

第2表

小集団名	1班	2班	3班	4班	5班	6班	7班	8班
人 員	5	6	6	6	6	5	5	5
ふくまれる 抽 出 児	A	B		C	D			E

## (2) 小集団の活用

各小集団は、生活集団、係集団と同一とし、学習集団としてもで

第3表

回 (月 日)	話 題	内 容	事 前 指 導
1 (9.20)	係の仕事をするのよう にするか	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事の内容と分担</li> <li>実践の方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何も指導なし</li> </ul>
2 (10.7)	遠足を楽しむするに はどうするか	<ul style="list-style-type: none"> <li>弥彦山での昼食のとり方</li> <li>休憩時の過ごし方、遊び方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話題を具体化して提示</li> <li>司会者に話し合いの進行について指導</li> </ul>
3 (10.26)	そうじを早くきれい にするにはどうする か	<ul style="list-style-type: none"> <li>そうじの問題点</li> <li>そうじのし方 分担、順序等の改善点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班活動、係活動等小集団の指導</li> <li>そうじの問題点を明確にするように掲示</li> </ul>
4 (11.10)	H君の病気見舞をど うするか(班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>お見舞の品</li> <li>日 時</li> <li>行く人 人数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会、帰りの会で解決に必要な資料の収集</li> <li>病状の具体的な説明</li> </ul>
5 (12.3)	学級の楽しみ会をし よう(班)	<ul style="list-style-type: none"> <li>種目、出演者</li> <li>時間、方法</li> <li>その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの進め方についての改善点の指示</li> <li>話し合いの解決についての指導</li> </ul>

## (4) 調査——研究の観点を検討するため、次の調査を行なった。

ア 抽出児の発言回数と内容、および小集団全体の発言回数	—— 各回ごとに	観点 (1) についての検討
イ 指導後の抽出児に対するソシオメトリー		観点 (2) についての検討
ウ 指導後の抽出児に対する意識調査		

(5) 調査時期 9月～12月まで

## Ⅲ 結果とその考察

## 1 発言回数と内容の変化

発言回数については、小集団と抽出児についてまとめ、内容については、抽出児についてのみまとめた。発言内容は、次の5つの類型に分類した。

- ① 提示 思いつく、提案する。提案に対して自分の意見もまじえた提案様の発言。
- ② 促進 人の考え、提案を促進する。回答、説明、意見、報告等を含む発言。
- ③ 同調 人の発言に対して賛成意見も加え、同調、賛成、妥協等の発言。
- ④ 批判 人の発言に対して、批判、対比、反対の発言。

きるだけ活用した。

## (3) 小集団の指導

ア 研究の観点から、各小集団の話し合い活動5回について、第3表のような事前指導を行なった。

イ 事前指導は、学級全体として、あるいは各小集団ごとに、全部同じように行なった。

⑤ その他 話題の中心からそれた発言。その他話題と無関係な発言

抽出児Dについての記録の一部を例示したのが第4表と第1図である。

第4表

話題	遠足を楽しむするにはどうするか。第5班(2回)
(注)	司—司会、D—抽出児 P1, P2, P4, P5は(成員)40.10.7
司	これから、弥彦山に登って昼食を食べる時や遊びのことに いて話し合います。
P1	昼食は、みんないっしょにかたまって食べたらいいですね。
P5	みんなて食べたらいいです。
P2	はい、それがいいです。
司	今、P1さんとP5さんから出た意見どうですか。
皆	それがいいです。
司	遊ぶ時は、どうでしょうか。

P2, わたしは、トランプやその他のゲームができる道具を持って  
行きたいです。

P4, わたしは、スケッチブックを持って行きたいなあ。

D, わたしは、トランプがいいです。

P2, しかし、みんなトランプをしたらどう？

P1, 写生したいのに、むりにトランプをせよというのも困るでし  
ょう。

P5, せっかく山に登ったんだから、晴れていたらスケッチしたら  
どう？

司, 皆さん、今、トランプと写生という話ができましたが、そのほ  
か遊びはありませんか。

P1, ありません。

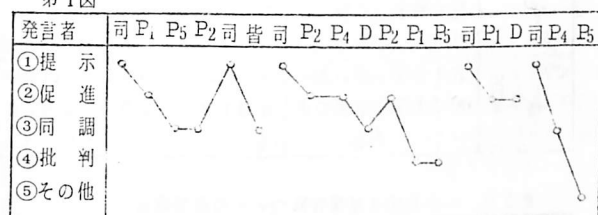
D, ありません。

司, じゃ、昼食を食べた後、時間がどれくらいあるかわからない  
けど、半分くらいトランプをして、あとの半分は写生したい  
人は写生、散歩その他の遊びをしたい人はそれを考えたら、  
めいめいの好きな遊びをね。

P4, それがいいです。

P5, みんなでやるのは、トランプよりほかにはないでしょうか。

第1図



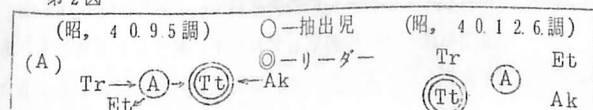
第4表

抽出児 (班員数)	A (5人)					B (6人)					C (6人)					D (6人)					E (5人)				
回	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
① 提 示					1			1	3	1		1	1	1	1	1		1	2	3			1	1	1
② 促 進	1		1	3	1	2	5	3	1	2	2	3	3	2	2	3	2	1	1	2	7	1	1	2	2
③ 同 調		3	2	1	1	2			1	1		1	1	1	2		2	3	1	2	1	4	4	3	2
④ 批 判		2			1				1	1	1			1	1				1	2	1			1	2
⑤ そ の 他	1	1		1		2	3	2	1	1	3	3	2	1	1			1	1	1	2	6	2	1	1
計 (a)	2	6	3	5	4	6	8	6	7	6	6	8	7	6	7	4	4	6	6	10	11	11	8	8	8
班の全発言回数 (b)	75	75	108	96	79	111	91	76	103	84	124	103	89	83	96	45	63	83	62	98	73	55	78	63	72
ひとり平均発言回数	15	15	22	19	16	19	15	13	17	14	21	17	15	14	16	8	11	14	10	13	15	17	16	13	14
抽出児の発言率 (%) $\frac{a}{b} \times 100$	3	8	3	6	5	5	9	8	7	7	4	8	8	7	7	9	6	7	10	10	15	13	9	13	11

## 2 ソシオメトリーについて

5回の調査が終わってから、抽出児を含む各小集団のソシオメトリック・テストを行なった結果について、小集団指導前のもものと比較したのが第2図である。ソシオメトリーについては、「いっしょに机を並べて勉強したり、遊んだりしたい人」について、順位をつけて3名記入させ、2位までを採択した。

第2図



この発言記録を、抽出児についてまとめたのが第4表である。この表から、各抽出児について次のようなことが考えられる。

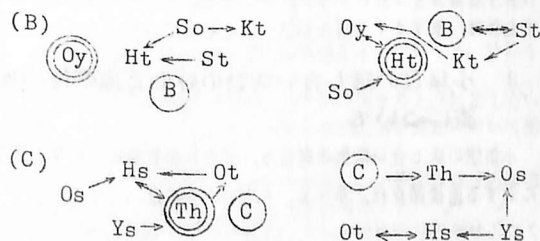
A— 発言率は概して低く、内容も簡単な賛成や、話題の中心からそれたもの等が主である。4, 5回となると発言率はやや高まってきたが、時には感情的な発言や個人攻撃的な発言等があり、質的にはあまり高まらず、大きな変化が見られない。

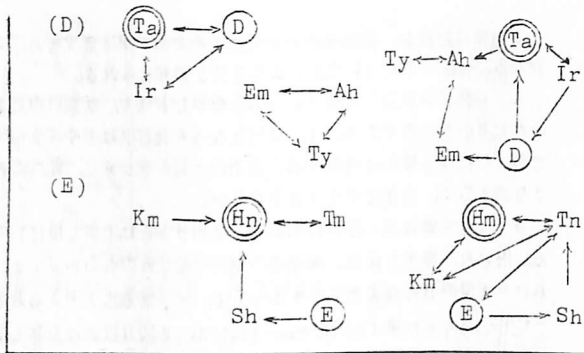
B— 発言率は第1回目は低いが、2回目からは上昇し横ばいである。内容は、簡単な促進、同調等の発言や話題外のものが多いが、これは今までのBの発言のようすから見て、大きな進歩と考えられる。

C— 発言率は第1回目はたいへん低いが、2回目以後は上昇して横ばいである。Cのそれまでの発言状況から見て、教師の予想外の発言率である。また、1, 2回ごろは話題の中心からそれたもの、話題と無関係な発言が多かったが、4, 5回になると、これらは少なくなり、自分の意見をまじえた同調や、話し合いを促進する発言が多くなった。

D— 発言率は回を重ねるごとに向上し、4, 5回に至っては、平均発言数に近づいている。それまで、学級全体では発言できなかったDにとって、非常な進歩である。1, 2回ごろは、簡単な促進、同調の発言が主であったが、4, 5回になると、幼稚ながらも、問題自体に自分の意見を加えて解決の方向に進めるような発言や、人の発言を批判修正するような発言も見られるようになった。しかし、反面、話題と全然無関係のその他の発言も出てきている。

E— 発言率は3回目を除いては全般的に高く、平均発言回数に近づいている。それまで、学級全体でほとんど発言したことのないEにとって、大きな変化である。しかし、発言内容そのものは、幼稚な思いつきや、簡単な自己表現をする意見、回答や賛成の発言が主である。また、1, 2回ごろは話題と無関係な発言が多く見られたが、4, 5回になると、しだいに少なくなっていった。





ソジオメトリーの変化については、厳密には条件が異なるので比較できないが、一応その限界内で考えてみると、

A——はじめ、リーダーTt, Et を選択し、またTtから選択されていた。それで構成員との密接な結びつきを期待したのであったが、結果は予想に反し、選択、被選択も共に1つもなく、成員個々が全くばらばらになってしまった。

B——はじめ、選択、被選択なしの孤立した状態であったが、リーダーHt, Kt とは地域的にも近く、遊びの日常観察では比較的接近していると思われたので、彼らに今後のグループ指導を期待してこの集団を構成した。結果は、Bは能力の近いSt とは相互選択となり、また集団全体が、期待どおりHt, Kt 等を中心として強い結びつきを示している。

C——はじめ、選択、被選択もなかったが、学級委員としてのリーダーTh の人間性、グループ指導に対する手腕に期待し、また、住居が地域的に近いOt, Ye等をもって構成した。結果は、CはリーダーTh を選択し、集団全体は、リーダーTh, Hs を中心としてまとまっている。

D——はじめ、リーダーTa と Ir を選択し、しかも、Ta とは相互選択の関係にあった。Ta を中心とする小グループと、Ty を中心とする小グループをもって構成したが、2つの融和が懸念された。しかし、結果は、DはリーダーTa, Em を選択し、また、Ir から選択され、2つのグループは融合し、交友の親密度は深まりつつあると言える。

E——はじめ、Sk を選択していた。この集団は、はじめから、Hn を中心とし、住居も地域的に近いKm, Tm, Sk 等が比較的強い結びつきを示していた。指導後は、図のようにEはSk, Tm を選択し、集団全体は、ますます強固な結びつきを示している。

### 3 小集団の話し合い活動の評価と連帯性の意識調査について

小集団の話し合い活動の評価と、連帯性の意識について、各抽出児に対する面接調査は、第5表、6表のようにになっている。

第5表 話し合い活動についての評価

調査対象 調査内容	A	B	C	D	E
①話し合いに満足か	満足していない	満足している	満足している	満足している	満足している
②進んで話し合いの仲間にはいるか	はいろいろとしない	はいろいろとする	はいろいろとする	はいろいろとする	はいろいろとする
③気楽に話せるか	よく話せない	話せない時もある	だいたい話せる	話せない時もある	だいたい話せる
④よく話せない時のわけ	おもしろくない	少しはづかしい	人が先に言う	思うように言えない	人が先に言う
⑤話し合いは楽しいか	あまりおもしろくない	普通	楽しい時もある	普通	楽しい
⑥そのわけ	〇〇君が自分勝手だから	仕事かきめられる	思うことが言える	話せない時がある	気楽に話せる
⑦話すことが信頼できるか	あまり信頼できない	だいたい信頼できる	だいたい信頼できる	たいへん信頼できる	だいたい信頼できる

第6表 小集団の連帯性についての意識調査

調査対象 調査内容	A	B	C	D	E
①今の班をどう思うか	あまりよくない	普通	たいへんよい	普通	たいへんよい
②そのわけ	〇〇君がすぐおこる	たいして感じない	勉強、仕事を相談している	皆仲よく仕事をすすめる	わからない時皆が教える
③班の仕事をつづけたいか	いやだ(けい示係)	どちらでもよい(新聞係)	つづけた(給食係)	どちらでもよい(保健係)	つづけた(整美係)
④そのわけ	放課後残っているのがいや	仕事が多くできない	仕事がおもしろい	男子がみんなをいう	きれいな持ちがよい
⑤今までうれしかったこと	なし	野菜サラダ作り	パンの用意を忘れなかった	自分の思うことが言えた	読めない漢字を教えられた
⑥今までいやだったこと	〇〇君がすぐおこる	なし	係りにもんくをいう人がいる	なし	係りの仕事をする時遊ぶ人がいる

以上の面接調査から次のことが考察される。

A 小集団の話し合いに満足しておらず、話すこと自体にも、あまり信頼性がおけないと言っている。話し合いに進んで参加しようと



する意欲もない。集団の運営自体に不満があり、係の仕事をやがっていることがうかがわれる。

B— 思うように話せない時もあるが、自分から進んで話し合いの仲間にはいろうとする意欲をもっている。また、話し合いによって仕事の計画が立てられ実行されていくことについて、ある程度、満足感をもっている。

C— 進んで話し合いに参加しようとする意欲をじゅうぶんもっており、自分で思うことが言えるようになったことに対して非常に喜びを感じている。集団意識が高まり、お互いの話し合い、助け合いによって仕事が計画され実行されている。

D— 思うように発言できない場合もあるが、話し合いには意欲をもっている。話し合いによって集団の仕事が進められ、しかも、その話し合いに自分が参加できるようになったことに対して非常に満足感をもっている。

E— 話し合いには積極的参加の意欲を示している。集団の一員としての意識が強く、係、学習その他の小集団活動をとおして、成員相互が助け合っていることをたいへん喜んでいる。

#### 4 総合的考察

以上の調査およびその他の観察記録等を総合すれば次のようなことが考察される。

A— 5回の発言回数、内容から見て、Aの日常生活における行動面からすれば、もっと向上するものと思われる。小集団の話し合いその他の活動に対して意欲が低調なのは、A自身にも問題があるが、リーダーのあり方、活動の仕方などから人間関係にも多くの問題があるように思われる。すなわち、Aの個人記録の中に、「班長のTtは自分ばかり頭がいいかっていばっている。係の仕事をする時、Trはいつも仕事が多い少ないとか、めんどろだというので、自分はTrとけんかをする。放課後残って仕事をするのがいやだ。」と集団や係の仕事に対する不満を述べている。この集団の連帯意識に欠けることが、ソシオメトリーでは成員個々の孤立となって表われたのであろう。これが、Aが話し合い活動において、発言率が低く、内容が乏しく、積極性を欠く一因ともなっていると思われる。

B— 知能程度や今までの無口な態度、神経質的傾向等からすれば、発言回数、内容はこの程度で止むを得ないのかも知れない。話し合いによって、係の仕事や班学習が進められることに対して満足し、自分も積極的に参加しようとしている。ただ、はずかしくて思うように話せない時があるとか、係りの仕事で他の成員のようにうまくできないので困ると述べているが、これは、抽出見の能力に合った仕事の割当て方を考え、話し合いや、仕事の技術的な面について漸次個人指導を行なうと共に、他の成員に対して劣等感を持たないよう小集団指導を行なうことが必要である。

C— 今まで集団生活をあまり好まなかったCが、係の仕事や班学習等が小集団の話し合いによって行われることに喜びを感じ、成員相互に協力し合い強い結びつきを示してきたことは非常な進歩であると思う。Cの個人記録に、「家庭科で野菜サラダ作りを各班でした時はたいへん楽しかった。よく計画を立てたつもりであったが、実際やってみると、なかなかうまくいかない面もあった。もっとやる前に、仕事の割当てや順序等についてよく話し合えば、早くきれいにできたのではなからうか。」と家庭科実習についてたいせつな反省点を述べている。

Cの発言率は向上しているが、発言内容は話題と無関係なものが見られる。また、自分が発言しようとしても、人が先に言ってしまうの

で言えない場合があると述べている。これらは、小集団の話し合いの過程で、進行その他において今後指導すると共に、C自身にも漸次個人指導をしていくべき問題であろう。

D— 今まで学級会で発言したことがなかったが、小集団の話し合いに気楽に発言できるようになったことをたいへん喜んでいる。

しかも、係活動、班学習、清掃等の奉仕活動もたいへん熱心で、お互いに助け合う成員の美しい心のふれ合いに感謝している。反省録に、思うように言えない時、他の成員から援助してもらい、話し合いに参加できた喜びと自覚を記しているが、感ひとしお深かったのであろう。

発言率はたいへん高くなっているが、内容はまだ話題の中心からそれたむだのものが多し。しかし、Dにとって情緒的安定感を得、集団意識の高まりと共に発言回数の高まったことをまず称揚すべきで、内容、質の問題は今後の指導に待つべきであろう。

E— 小集団の係、学習、その他の仕事に対し、集団の一員としての自覚のもとに積極的に参加している。これは、成員個々が暖かい思いやりと支え合いで固く結び合っているソシオメトリーの結果にもうかがわれる。

今まで孤立的で人とあまり話さなかったEにとって、小集団では気楽に思うことが話せるようになり、しかも、話し合いが楽しくなったということは大きな進歩ではなからうか。しかし、発言内容そのものを見ると、幼稚な思いつきや簡単な回答、意見等が多い。これはEの知能や今までの生活実態から考えて、現段階では止むを得ないと思われる。

#### むすび

話し合いに消極的な態度を示す児童を、小集団活動の発展をとおして、情緒的安定感を与え、集団への所属意識を高めると共に、話し合いに積極的に参加させるため種々指導してきた。その結果、児童B、C、D、Eは情緒的不安感が解消し、集団のモラルも高まり、話し合いに積極的意欲を示したが、児童Aのように、集団意識の高まりが見られず、成員相互の結びつきが予想に反して孤立状態となり、活動も停滞して話し合いへの意欲を欠いたものもあった。

しかし、5人に共通して次のことが考えられた。

- ① 話し合いに消極的な児童を、小集団活動の発展をとおして児童の発言を促進することは有効である。
- ② 小集団活動の発展をとおして、児童に情緒的安定感を与え、集団への所属意識を高めることは有効である。
- ③ 小集団活動における話し合いは、発言率はかなり高まるが、内容は簡単な同調、促進等の発言、あるいは話題の中心からそれたもの、無関係なものが多い。

小集団活動の指導を中心としての児童の発言の促進に関する研究は、個人の問題、集団の問題等がいろいろあり、なかなかむずかしい。今までの反省から、今後の指導には特に次のようなことに留意しなければならない。

- ① 集団の構成に意を用い、常に構成員をよくは握る。特にリーダーの指導には注意する。
- ② 話し合いに消極的な児童に、発言率の高まりと共に話し合いの技術、仕事に対する技術的な面を小集団活動の過程において個人指導をし、劣等感をもたせないようにする。
- ③ 成員個々が自分の責任と地位を自覚し、小集団の自主的な活動ができるよう、常に個人指導、集団指導をする。

さらに小集団活動における話し合いという消極的な面だけでなく、これらの児童の発言を、学級全体での話し合い活動において促進させるために、小集団活動の指導の結果をどのように転移させていくかが今後の研究課題である。